

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00958

研究課題名（和文）宮崎家所蔵資料の整理・公開・保存に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research for the organization, disclosure, and preservation of the Miyazaki family's collection

研究代表者

福家 崇洋（FUKE, TAKAHIRO）

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：80449503

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：明治期以降、民間の日中交渉を担ってきた宮崎家には、さまざまな貴重な歴史資料が所蔵されている。そのうち、本研究計画では、孫文ら中国人革命運動家を支援した宮崎滔天の関係資料を中心に整理し、資料目録を作成して公開した。また同資料のうち貴重な資料の一部を翻刻・公開した。あわせて資料調査の過程で発見された諸資料を用いて、日本近現代史に関わる研究報告を行い、学術論文を発表して、日本史研究及び日中交渉史研究に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

宮崎家に所蔵される宮崎滔天関係資料は『宮崎滔天全集』に翻刻・収録されていたが、今回の調査でそれ以外の貴重な資料も存在することが明らかになった。本研究計画では、宮崎家にある宮崎滔天関係資料の目録を作成し、そのうち貴重なものの一部を翻刻して公開したことに学術的意義がある。宮崎滔天関係資料には日中交流関係史を検証するうえで重要な資料も数多く含まれ、現在及び未来の日中交流の指針を考えるうえでも大きな社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：The Miyazaki family, which has been responsible for private-sector Japan-China negotiations since the Meiji period, possesses a variety of valuable historical materials. In this research project, we have organized, cataloged, and published materials mainly related to Miyazaki Touten, who supported Sun Yat-sen and other Chinese revolutionary activists. In addition, some of the valuable materials were reprinted and made public, and using various materials discovered in the process of material research, we have reported on research related to modern and contemporary Japanese history, published academic papers, and contributed to the study of Japanese history and the history of Sino-Japanese negotiations.

研究分野：日本近現代史

キーワード：宮崎滔天 宮崎龍介 日中交渉 大正デモクラシー 吉野作造 北一輝 無産政党 辛亥革命

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題の「宮崎家資料」とは、東京都の宮崎家に所蔵されている宮崎滔天、槌子(滔天妻)、龍介(滔天長男)、震作(滔天次男)の関連資料を指す(柳原白蓮の関連資料は文学関係のため本研究の対象から除外)。大正初期に当地に居を移した宮崎家は、戦災をまぬがれたこともあり、貴重な資料が今なお一括して所蔵されている。

宮崎家資料の一部は、これまで全国各地で開催された展覧会の図録や『宮崎滔天全集』全5巻(1971~76年、以下『全集』)を通して公開されてきた。しかし、展覧会図録は国会図書館にすら所蔵がなく、研究で体系的に参照することは困難である。他方、『全集』のうち1巻から4巻までは、宮崎龍介が宮崎家資料の一部を提供し、小野川秀美とともに編集作業にあたった。その後、1971年に龍介が亡くなったため、5巻の編集作業は宮崎智雄・落萇両氏(龍介・白蓮の娘夫婦)が担当した。彼らは宮崎家から新資料を見つけ出し、その一部が5巻に収録された。『全集』は辛亥革命期の日中関係史研究やアジア主義の学術研究に大きなインパクトを与え、現在も同分野の基礎資料として日中両国の歴史研究者に参照されている。

しかし、今日でも宮崎家資料の全貌は未解明のままである。2015年以降申請者が行った予備調査で『全集』に収録されていない滔天時代(明治中期~大正中期)の資料が存在していること、それ以外に龍介時代(大正中期~昭和戦後期)の資料も膨大に残されていることが明らかになった。いまだ仮目録での概算ながら、その点数は総計4000点を越え、歴史研究の一次資料として活用できるものを数多く含む。このため、宮崎家資料の全貌を把握し、そのうち研究上価値ある資料を公開して未来の研究に役立てていくことは、歴史研究者にとって長きにわたる願望であり、その実現に尽力することが本研究の主な課題である。

2015年の予備調査開始時、私は京都大学大学文書館助教としてアーカイブ業務に従事していた。この業務経験を活かして、所蔵者許可のもとで宮崎家資料を整理し、より多くの歴史研究者が資料を利用しやすい環境を整えることが責務と考えた。資料整理は宮崎家内で行うため、所蔵者に迷惑がかからぬよう、作業は少人数(1人ないし2人)で行うこととした。あわせて、調査日数、頻度、日時なども宮崎家との打合せのうえで作業を進めた。こうした作業条件のもとで、資料の実見と整理・分類、簡易目録の作成を最優先した。作業上心がけた点として、経年劣化のため早急な保護を要する資料が多く応急的な保存措置を行うこと、それらの資料の粗目録を作成して概要を把握することである。これらの作業は2017年9月で一区切りを迎えた。この作業を踏まえて、宮崎家資料の目録作成・保存・公開に向けた作業に移りたいと考え、本研究課題を申請した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、宮崎家資料の目録作成・公開・保存の各作業を行うことにより、今後未永く国内外の歴史研究者が宮崎家資料にアクセスできる環境を整えることである。

私は、2015年から宮崎家において資料の整理と簡易目録の作成、応急的な資料の保存作業を行ってきた。しかし、一個人の利用にとどまらず、歴史研究全体のボトムアップにいかにか寄与できるかも考えなければならない。このため、科研費申請によって、他分野の研究者、未来の研究者が未永く宮崎家資料を活用できる環境を整えたいと考えた。また、遠隔地での資料整理、保存、公開に向けた予算上の見積もりを考えた場合、大学から支給される研究費だけでは充当できなくなったことも本申請の背景にある。

本研究の成果によって明らかになるのは、宮崎家資料の全体的な構造であり、これまで断片的に世に出されてきた資料を全体的な観点から捉え直すことができることである。とくに重要なのは、刊行から40年以上経つ『宮崎滔天全集』の収録資料とそれ以外の宮崎家資料から資料的基盤を再構築していくことで、新たな滔天像を提示するとともに、日中交流史やアジア主義の研究を発展させることにある。

くわえて、宮崎家資料には龍介時代の未引用資料が数多く含まれる。龍介の軌跡を一次資料から明らかにすることは、左派社会運動のメインストリームを根本から一新でき、左右に分断された社会運動史を描き直す可能性を秘めている。龍介は、滔天の息子として1920年代から戦後にかけて中国の国民党、共産党双方の関係者と交流があり、これまで先行研究が手薄な、戦前期の社会運動と中国の関係を未発掘の資料から明らかにできる。すでに龍介が関わった運動や事件に関する貴重資料を発見しており、その目録と資料を公開したうえで、自身でも積極的にこれらのテーマに取り組み、学術論文の成果として還元していきたい。

また、宮崎落萇氏、宮崎黄石氏(落萇氏長男)への聞き取り調査も実施する。落萇氏へは2016年に一度聞き取りを行い、龍介・白蓮に関する貴重な証言を得た。また、黄石氏からは調査の度ごとに祖母龍介・白蓮につき貴重な教示を得ている。数十年前の出来事に関する具体的かつ正確な証言を引き出すには宮崎家資料の参照が不可欠であり、資料整理と同時並行で実施していく

必要がある。

### 3. 研究の方法

各年度の作業内容・体制は基本的に同じである。作業内容は、宮崎家資料簡易目録の精査、資料公開、資料保存である。作業の順序は、まず宮崎家資料のうち歴史研究上とくに重要と思われる資料の正確かつ詳細な目録を作成公開する。次に、目録を作成した資料のうち公開が可能な資料をデジタル・スキャンしてデータを作成したうえで、各データを紙媒体として公開する。最後に、とくに重要な資料を中性紙箱・封筒に保存して資料の酸化・劣化を可能なかぎり抑える。

作業体制は予備調査時と同様の予定である。これは、大人数のアルバイト雇用によって長期間の作業にあれば宮崎家に迷惑がかかるため、宮崎家も従来通りの体制を望んでいる。1、2人の人員、2、3か月毎の頻度、1回につき数日～1週間程度の作業を見込んでいるが、あくまで宮崎家のご都合を最優先して作業に取り組む。

書庫などの諸資料を分類・整理し、簡易版目録を作成するだけで2年の歳月が必要だったことを考えれば、目録の整備や貴重資料のスキャン、データ整理、保存作業はその数倍の時間・労力・費用が必要であり、今回の当初の申請では3年の研究期間を設定した。ただし、所蔵者との意思疎通は充分できており、作業を円滑に従事する環境も整っていることから、単年度ごとにすでに世に出せる目録や資料データを公開していくことが可能だと考えている。

宮崎家資料は、主な資料の種類として書翰、文書、写真、モノ資料がある。滔天時代の書翰のうち滔天筆書翰は全集に収録されたが、滔天宛て日本人及び中国人革命運動家の膨大な書翰は収録されていない。このため、宮崎家資料の公開によって、日中両国の歴史研究者が辛亥革命期の日中交流史やアジア主義の研究に新たな光をあてていくことができる。滔天時代の文書類はそう多く残されていないが、妻槌子の関係文書がまとまって残されている。全集未収録資料も相当あり、今後新たな滔天像につながる。また、滔天時代の写真も数多くある。ここには宮崎家に贈られた孫文、黄興ら中国革命家に関するものも含まれる。これらの写真を学術資料として積極的に活用すべく、まずは保存も兼ねてデータ化する。

次に、龍介時代の資料は書翰、文書、写真とも膨大に残されている。幼少期の諸資料から東大新人会時代、白蓮事件、1920、30年代の無産政党、40年代の東方会への関与、1950年代の護憲運動や訪中の諸資料がある。これらは未公開のものばかりであり、日本近現代史、思想史、日中交流史に関わる未発掘の鉱脈である。それゆえ、これらの資料を整理・公開し、解説を付すだけでも高い学術的独自性がある。また、写真も段ボールで数箱分の分量があって、そのなかには東大新人会関係や1920年代末・1950年代の訪中時の写真など注目すべきものも多く、学術研究に活用できる。

### 4. 研究成果

本研究計画(当初3年間の予定だったがコロナ禍のため延長して4年間)では、宮崎家所蔵の貴重な資料(特に宮崎滔天関係)を整理させていただき、以下のような、(1)資料目録や資料紹介といった基礎研究の成果と、これに基づく(2)研究成果(報告や論文など)を発表してきた。

#### (1)資料目録・資料紹介など

##### 資料目録

宮崎家資料の数は膨大なため、まずは宮崎滔天を中心に資料を整理した。その結果、本研究計画の集大成といえる「宮崎家所蔵宮崎滔天関係資料目録」を『人文学報』117号(2021年5月)に発表することができた。本目録は宮崎家所蔵の宮崎滔天関係の文書、書簡の一覧をまとめたもので、『宮崎滔天全集』未収録資料の書誌情報も含むために学術的価値は高く、今後の日本史研究、日中交渉史研究に寄与すると考えられる。

##### 資料紹介

2018年度に『吉野作造研究』15号(2019年4月)に投稿した「史料紹介 宮崎家所蔵吉野作造書簡」がある。内容は吉野作造から宮崎滔天・龍介にそれぞれ宛てた書簡2点で、いずれも未公開のものである。1通目は短信ながら吉野作造と宮崎滔天の交友の一端を垣間見ることができる貴重な資料である。2通目は、1926年に明治文化研究会から復刊された滔天『三十三年之夢』の刊行経緯が吉野作造と宮崎龍介のやりとりから把握できる内容である。

次に、2021年度に『人文学報』119号(2022年6月発行予定)に投稿した「宮崎家所蔵宮崎滔天関係資料」である。同資料は宮崎滔天が関わったロシア人革命家の翻訳本や革命評論社の収支簿と思われる資料、宮崎滔天の交友(桃中軒雲右衛門、何天炯)に関する資料である。以上の諸資料も『宮崎滔天全集』を補ううえで重要な資料である。

##### 資料保存

整理させていただいた資料を中性紙箱・封筒に入れて保存したほか、資料の一部を業者に依頼

してデジタル化した。資料の利用時にデジタル資料を活用するなど、資料が可能なかぎり傷まない方法をとった。

## (2) 研究報告・論文など

### 研究報告

2018年10月に京都大学人文科学研究所「近代京都と文化」研究班で「白蓮事件」再考」を報告した。「白蓮事件」は、1921年10月、福岡の実業家伊藤伝右衛門の妻で歌人の柳原白蓮(伊藤燐子)が滞在先の東京で出奔し、宮崎龍介と駆け落ちした一見を指す。この報告では、未引用の宮崎家所蔵資料を用いて史実を丹念に検証しつつ、宮崎龍介が関わる学生運動の諸相も組み入れて、白蓮を中心に描かれる「白蓮事件」を描き直した。

次に、「史料紹介 宮崎家所蔵吉野作造書簡」解説執筆時に吉野作造と中国問題について研究した知見を発展させ、京都大学人文科学研究所「20世紀中国史の資料的復元」共同研究班で2019年7月に「吉野作造『支那革命小史』小考」と題して報告を行った。同報告は『支那革命小史』などで展開される吉野作造の中国論を彼の第一次大戦論を参照としつつ思想史的な方法から再検討を行ったものである。

また、法政大学大原社会問題研究所主催の無産政党資料研究会で、同年8月に「無産政党関係資料の紹介 宮崎家所蔵文書から」を、同年12月に「社会大衆党結党についての一試論」を報告した。いずれも本調査で明らかになった新出の宮崎龍介関係資料を用いた。前者は、同関係資料のうち宮崎龍介が幹部に就く無産政党の諸資料について報告した。後者は、この資料のうち社会大衆党結党関連の一次資料を用いてこれまで事実関係の描写で済まされていた同党結党の背景を報告した。

無産政党資料研究会では引き続き、2020年8月に「『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』解題」を報告した。同新聞は宮崎龍介が幹部だった社会民衆党、社会大衆党の機関紙であり、その歴史的意義を明らかにした。あわせて、近代中国への知見を深めるため、京都大学人文科学研究所の「20世紀中国史の資料的復元」共同研究班などで報告へのコメントを担当した。

以上のほかに、大正デモクラシー研究の検討も同時に行った。これは宮崎龍介が関わる新人会や無産政党などが大正デモクラシーを代表する諸団体と考えられているため、宮崎龍介の思想と軌跡を考えるうえで大正デモクラシーの検討は欠かせないためである。2018年8月に同志社大学人文科学研究所第8研究会で「大正デモクラシー研究と「戦後民主主義」 松尾尊兌氏の研究を中心に」、2019年6月に京都歴史研究会で「松尾尊兌と大正デモクラシー研究」、同年8月に同志社人文研第8研究会「転換期のデモクラシー 「戦後民主主義」に関する歴史的・理論的研究」成果論文集研究会で「戦後民主主義と大正デモクラシー研究 ～松尾尊兌を中心に～」、2021年1月に関西近現代史研究会で「松尾史学の形成と大正デモクラシー研究」と題してそれぞれ報告し、大正デモクラシー研究の史学上の展開と可能性について検討した。

### 研究論文など

以上の(1)と(2)に基づき、関連テーマの研究原稿の執筆もつとめた。大別すれば、a)宮崎滔天関係、b)宮崎龍介関係、c)大正デモクラシー関係になる。

#### a) 宮崎滔天関係

『ことたま』87巻11号、88巻2号(2018年10月、2019年1月)に掲載された「宮崎滔天と北一輝」(上・下)である。『ことたま』は柳原白蓮が創刊した雑誌で、今回宮崎家からの執筆依頼で掲載が実現した。宮崎家所蔵の北一輝関係資料は『宮崎滔天全集』3、5巻に口絵写真として掲載されていたが、この資料を分析することで、革命と信仰を介した北一輝と宮崎滔天の交友の一端を明らかにすることができた。

#### b) 宮崎龍介関係

『社会民衆新聞・社会大衆新聞』復刻版(三人社、2021年刊行)に掲載された同新聞の解題(5巻収録、2021年1月)がある。これは上記の無産政党資料研究会での報告の成果である。また、同研究会が『大原社会問題研究所雑誌』740号(2020年6月)で組んだ特集「無産政党の史的研究 『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』を中心に」に「全国労農大衆党結党の検討」を発表し、宮崎龍介も関わった無産政党のひとつ全国労農大衆党が誕生する歴史的過程を描いた。

#### c) 大正デモクラシー関係

「大正デモクラシーと戦後民主主義 松尾尊兌の研究を中心に」(出原政雄・望月詩文編『戦後民主主義』の歴史的研究』法律文化社、2021年3月)で大正デモクラシー研究に対して史学史的な検討した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 740
2. 論文標題 全国労農大衆党結党の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 43-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 741
2. 論文標題 転向に生きる苦悩 小林杜人の転向論に焦点をあてて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 40 - 59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 17
2. 論文標題 養徳社の風景（二）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 EURO-NARASIA Q	6. 最初と最後の頁 46 - 53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 117
2. 論文標題 映画「武器なき斗い」と戦後自主製作・上映運動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 121 - 155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 87巻11号
2. 論文標題 宮崎滔天と北一輝 上	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ことたま	6. 最初と最後の頁 18 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 88巻2号
2. 論文標題 宮崎滔天と北一輝 下	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ことたま	6. 最初と最後の頁 19 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 15号
2. 論文標題 史料紹介 宮崎家所蔵吉野作造書簡	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉野作造研究	6. 最初と最後の頁 67-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TAKAHIRO FUKE	4. 巻 50
2. 論文標題 State Socialist Movement in Japan during the Early 1930s: Focusing on the Nazi Party and the "Fascism" Debates	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ZINBUN	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 16
2. 論文標題 養徳社の風景(一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 EURO-NARASIA Q	6. 最初と最後の頁 34-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福家崇洋	4. 巻 117
2. 論文標題 宮崎家所蔵宮崎滔天関係資料目録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 209-240
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 福家崇洋
2. 発表標題 『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』解題
3. 学会等名 無産政党資料研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福家崇洋
2. 発表標題 松尾史学の形成と大正デモクラシー研究
3. 学会等名 関西近現代史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福家崇洋
2. 発表標題 吉野作造『支那革命小史』小考
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所「20世紀中国史の資料的復元」共同研究班
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福家崇洋
2. 発表標題 無産政党関係資料の紹介 宮崎家所蔵文書から
3. 学会等名 法政大学大原社会問題研究所 無産政党資料研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福家崇洋
2. 発表標題 社会大衆党結党についての一試論
3. 学会等名 法政大学大原社会問題研究所 無産政党資料研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福家崇洋
2. 発表標題 「白蓮事件」再考
3. 学会等名 都大学人文科学研究所「近代京都と文化」研究班
4. 発表年 2019年



〔図書〕 計6件

1. 著者名 筒井清忠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 昭和史講義【戦後篇】(上)	

1. 著者名 福家崇洋、立本紘之、杉本弘幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 286
3. 書名 社会民衆新聞・社会大衆新聞 5巻 解題	

1. 著者名 出原政雄、望月詩史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 304
3. 書名 「戦後民主主義」の歴史的研究	

1. 著者名 高木博志	4. 発行年 2018年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 546
3. 書名 近代天皇制と社会	

1. 著者名 長妻三佐雄、植村和秀、昆野伸幸、望月詩史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 ハンドブック近代日本政治思想史 幕末から昭和まで	

1. 著者名 藤原辰史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 歴史書の愉悦	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------